



我楽田 BRIDGE



経営者 x 地方創生



経営者

我楽田
BRIDGE

地方創生

地元を、故郷を、
日本を元気に！



我楽田BRIDGEとは？

我楽田BRIDGEは、
地方創生に挑戦する「経営者」と
地方課題に悩む「地方」をつなぐ
経営者限定の会員サービスです。



我楽田BRIDGEとは？

地域課題を学び、地域資源を探求する。

BRIDGE 1

経営者 x 自治体
セッション



経営者と地方自治体をつなぐ
Zoom会議の開催

BRIDGE 2

経営者 x 地方
視察ツアー



地域資源や地域課題を探求
する地域体験ツアーの実施

BRIDGE 3

経営者 x 経営者
交流イベント



経営者が集まり交流するイベ
ントや勉強会の開催

想定するメンバー

地域課題を解決するビジネスを創出する。

起業家

スタートアップ



社会課題を解決する新しい視点の発見とビジネスの創造を目指す若手起業家。

経営者

人脈・仕事づくり



自社のスキルや経験を活かし、新しいビジネスや人脈を築きたい経営者。

社会投資家

地域と若者の応援



地元や故郷への社会貢献や地方創生に挑戦する起業家を応援する社会投資家。

提供する価値

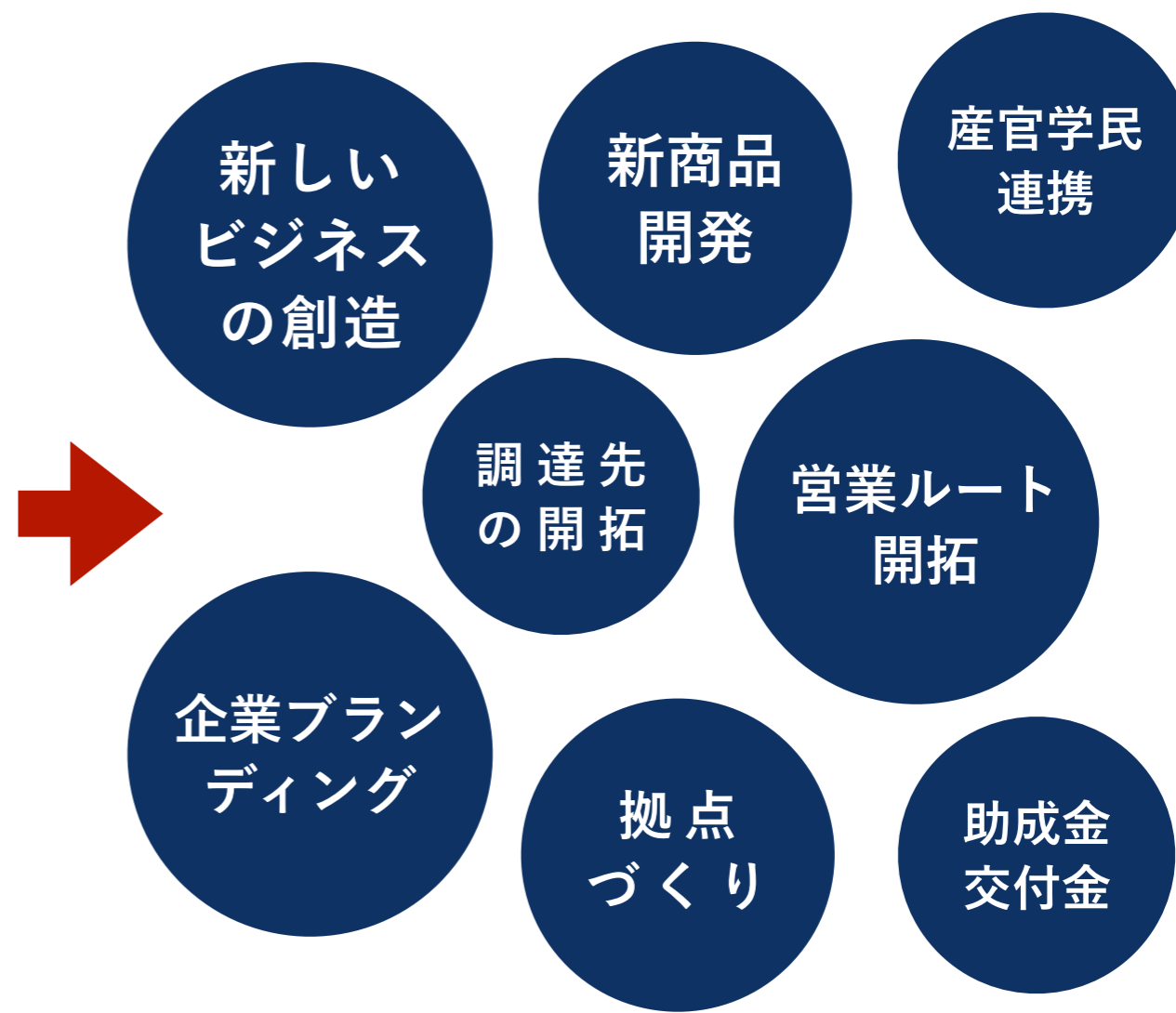
【体験】

経営者が得られること

- ▶ 人脈や地域資源の発見
- ▶ 自治体との関係構築
- ▶ 日本の社会課題を知る
- ▶ 挑戦できるフィールドの獲得
- ▶ 社会貢献や故郷の応援

【創造】

企業の可能性



地方の課題（事例：長野県天龍村）



長野県・天龍村

- ▶ 東京から車で5時間
- ▶ 人口1,100人、高齢化率60%と全国でNo.2の純山村
- ▶ 9割以上が山林という自然豊かな
- ▶ 伝統野菜ていざなす、柚子、中井侍茶を持つ
- ▶ 秘境の駅として知られる「為栗駅」などがある

【天龍村の課題】

DX推進

自然環境
次世代エネルギー

防災体制の強化

農林水産業の推進

遊休施設の利用

教育体制の強化

観光振興

医療・福祉の強化

リニア開通に向けた
地域づくり

事例① 次世代エネルギー企業 × 限界集落

自社ノウハウを活かしたエネルギー対策の実証実験へ

天龍村は高齢化率が全国で2位で、深い山に多くの集落がある。
太陽光パネル施工などのエネルギー事業を行う経営者と共に、地元のお茶畑を営む80代の夫婦が住む家を訪問し、限界集落の生活を視察。
今後、蓄電池を活用した新しいインフラと防災策の実証実験を行う予定。

【課題】

インフラ
の維持

台風・地震
などの
自然災害

孤立化



事例②

学習塾 × 教育

地方の教育DX - 新時代の学びと都市農村交流の提案

人口1,110人の小さな村、天龍村の小学校は生徒が30人未満。全生徒に最新のiPadが提供されている。学習塾の経営者と共に、1年生から6年生までの授業の見学と学校長や教育委員会との意見交換を行う。首都圏の講師や大学生、同世代の子供たちと、地域を超えた交流を通じ、多様な学びの機会を提供することを検討する。

【課題】

生徒が
少ない

コミュニティ
が限定される

高校がない



事例③

法律事務所 × 専門家不在の村

地方の弁護士不足 - 地域に根差した法律支援の提案

天龍村には法律の専門家がいない。弁護士事務所の経営者と共に役場を訪れ、現在の法律相談サービスや将来の法律相談のニーズについてヒアリングを行った。地元住民が気軽に法律専門家とつながる地域密着型の交流の場をつくり、定期的な弁護士カフェの開催やリモート法律相談のシステムの構築を検討する。

【課題】

弁護士
不在

気軽に相談
できない

専門家
不足



事例④

東京の主婦 × ふるさと納税の返礼品

ふるさと納税の返礼品を開発 - 天龍村と包括連携

1本の重さが1kgを超える天龍村の伝統野菜「ていざなす」は、東京ではほとんど流通されていない。東京の主婦コミュニティがていざなす農家と横浜の障害者施設が運営する加工場を視察。天龍村と地域資源を活用した包括連携を締結。ていざなすを使った3分程度で作れるインスタント食品の開発を行っている。

【課題】

認知度がない

販路開拓

後継者
不足



事例⑤

料理教室 × りんご農家

規格外りんごの活用 - オリジナルグラノーラを開発

長野県のりんご農家は、度重なる台風やゲリラ豪雨の影響で多くのりんごの木が被害を受けている。東京で料理教室やパン教室を展開している主婦が箕輪町のリンゴ農家と千曲市のグラノーラ製造工場を視察。規格外りんごを使ったオリジナルのグラノーラを開発して販売を行った。

【課題】

台風被害

規格外

販路開拓



事例⑥ 人材企業 × 地方DX

デジタル人材不足の地方自治体へ、DX教育の提案

デジタル庁の設立に伴い、地方自治体でのデジタル化が加速しているが、デジタル人材不足が課題となっている。人材事業を行う企業が、全国の8市町村を訪れ、フィールドワークや住民とのヒアリングなどを行った。デジタル人材の派遣や教育サポートを通じて、地域特有の課題に対応する専門家の育成を行う包括連携の締結を行った。

【課題】

デジタル
人材不足

何から
やればいいのか
わからない

課題や
ニーズが
不明



入会について

【会費】

月額 11,000円 (税込)

【申し込みフロー】



申し込み・お問い合わせ先

我楽田BRIDGEは、地域から新しいソーシャルビジネスを創出することを目指す経営者限定のプラットフォームです。

新しいソーシャルビジネスの可能性を一緒に探求しませんか？
私たちは、あなたのビジョンを実現する機会と場を提供します。



我楽田BRIDGE

<https://garakuta.tokyo/bridge/>

Mail : info@garakuta.tokyo

TEL : 090-9303-8275 (横山)



運営

我楽田工房／Bono Inc.

我楽田工房は、東京と地方をつなぐことをテーマに全国の地方自治体や企業、専門家、学生と連携しながら、課題解決や新しい価値作りにつながるソーシャルビジネスづくりに取り組んできました。東京・文京区では、地域交流スペース「我楽田工房」の運営をはじめ、経営者勉強会や学生交流、都内の地域祭りの支援なども行っています。

【会社名】 ボノ株式会社

【URL】 <https://garakuta.tokyo/>

【代表者】 代表取締役 横山貴敏

【所在地】 東京都文京区関口1-29-6

【設立】 2008年7月10日

【事業】 地方創生支援、スタートアップ支援、施設運営、イベント企画、学生支援



なぜ地方なのか？

次のビジネスを創造するには、地方自治体との連携が鍵

地方自治体には、国が毎年発表している経済財政白書などに従った地域政策や計画を進めるための最新情報が集まっています。また、多くの企業も地方で新しいビジネスの創出のための様々な実証実験を行っています。

地方自治体の動きを知ることは、2,3年後の日本経済の動向や予想される流行のヒントがあると同時に、日常業務では得られない貴重な情報や地域固有の課題を知り、企業の成長や地域との共創の機会を増やします。

